

第51回
平成27年度

わたしの教育記録

入選作品発表

入選

集団読書の質を高める

読書指導 ～「中学生の読書室」3年間で 50冊にチャレンジ～

岐阜県揖斐郡揖斐川町立北和中学校教諭 森本 彰徳

受賞の言葉

岐阜県揖斐郡揖斐川町立
北和中学校教諭
森本 彰徳



教員生活38年間の区切りに、このような名誉ある賞を頂き、心よりお礼申し上げます。昨年退職し、本年度から「再任用」という形で、引き続き現場でお世話になっております。

今回の「読書指導」は、長年のテーマとして取り組んでいるものです。私自身、生涯1万冊読了を目指して36年前から「読書ノート」に記録し続け、現在5300冊ほどできました。余生を考えると、目標達成は到底不可能ですが、その目標が日々の励みになっています。

今回の実践は、これまでの読書経験をもとにまとめたものです。スマホやTVゲーム、電子図書等、デジタルなメディアが蔓延する中、どうしても面倒な活字から遠ざかりがちですが、義務教育9年間の国語学習の成果は、「読書習慣の有無」にあるのではないかと確信するようになりました。その習慣が、生涯学び続ける姿勢を生み出し、すべての知的活動の原点になると考えています。

社会人になってからの「読書習慣」は、余程の目的意識と強い意志、必要性に迫られない限り、身に付けることは難しいのではないのでしょうか。活字から遠ざかりがちな中学時代に、「読書の面白さ」「知的充足感」を繰り返し味わうことで読書習慣を身につけ、生涯教育への基盤を確立してほしいと願っています。

1. はじめに ～主題設定の理由～

38年間の教員生活の中で、生涯学習の観点から、「国語学習の成果は「読書習慣」にあり」と確信するに至った。「本を読む習慣」は、生涯学び続ける姿勢を生み出し、すべての知的活動の原点となるからである。

6年前、本校に赴任した折り、初めて中学校での「朝読書」に出会った。基本的にどんな本を読んでもよいということであったが、実際、その内容を見てみると「もう少し他の本はないのか」と思うことがしばしばであった。そのため、授業や通信で選択のためのガイドブックや推薦図書を紹介したり、図書館に「先生のお勧めコーナー」を設置したりするなど、本への興味関心を喚起して質的な向上を図ろうとした。しかし、実際それを手に取って読もうという生徒はほとんどいなかった。その後も、授業の最後2～3分間、本の話を位置づけ、意欲付けを図ったが、進展は見られなかった。実際に手にとって読むに至るまでには、精神的、物理的に距離があったのである。

出版文化産業振興財団の「2010年国民読書年に向けて現代人の読書実態調査」（2009年）によれば、中高生の「読書が好きになったきっかけ」は、「たまたま読んだ本が面白くて」

が59・8%と半数以上を占め、他を大きく引き離しトップとなっている。このような結果から「まず面白い本を読む」ことが読書習慣形成の第一歩であると考えた。ただし、この「面白さ」は表層的なものではなく、「本物だけが持つ面白さ」をねらった。口当たりのよい安易な読み物ばかりに走っていると、いつまでたっても、自分の世界を広げる本当の面白さや感動を味わうことはできない。読書による本当の満足を感じるためには、少し程度が高いと思われるくらいの本と取り組み、格闘するという経験が必要である。そこから、生涯読み続ける姿勢、「本物の読書習慣」が生まれると考えている。それを目指して、本主題を設定した。

2. 実践 「本を身近な存在にする工夫」と

「読書記録」

①本を身近な存在にする工夫

①学年毎に「推薦図書50冊」の書架を配置する
各学年毎に50冊の推薦図書を購入し、書架を学年の廊下に配置した。推薦図書のジャンルは、文学、SF、伝記、ノンフィクション、マンガと多岐にわたり、読書の間口を広げ、きっかけの機会を増やすよう配慮した。選択の対象となったのは、自分自身が今までに読んだ5000冊余りの本と、各種読書案内の中から約5

000冊、合わせて1万冊ほどの本である。50冊という限定上、取捨選択には多大の時間を要したのは言うまでもない。結果的に一般的な選定にはなかったが、自信を持って勧められる良書ばかりである。

出版される本はほとんど無数にあり、何を読むかという選択はなかなか難しい。核心に迫らぬうちに時間だけが過ぎ、結局それだけで終わるという危機もはらんでいる。限られた時間の中でやはり道しるべは必要で、指標があれば、それを元に自分自身の読書を広げることができ



推薦図書50冊の書架

る。そういう意味で今回の選択は広い分野から「外れのない」作品を選んだつもりである。これらの作品を元にしなが、更に狭く、深く掘り下げていけばよい。

なお、本の返却、借用については、貸出中の用紙をA5のクリヤーファイルに入れることで、手続きをできる限り簡便にし、読みたい本がすぐに手に取れるように配慮した。

②「推薦図書」の一部にマンガを選定

今やマンガも立派に市民権を得ている。その中で「火の鳥」「カムイ伝」「MONSTER」を選定し、活字に抵抗感を示す生徒への間口を広げた。その際、主に参考にしたのは、「読んでから死ぬ」現代必読マンガ101(中条省平/文藝春秋)、「マンガの教養」読んでおきたい常識・必修の名作100(中条省平/幻冬舎新書)である。中でも「MONSTER」は、「世界でも日本のマンガだけが達成した技法を日本一のレベルで実現する」と最高の賛辞が与えられている。実際、読了した生徒にも「本当に面白かった」と非常に評判がよい。なお、この本の中で紹介されたマンガは半数近く読んだが、質、量ともに作品として十分に読み応えのあるものはかりである。本の帯にある記述のように、「これを読まずに人生は語れない」は、決して誇張ではないことを読んで実感した。

学校体制の中で、朝読書が10分間位置づけられている。朝の部活動終了後、教室に戻ると、

生徒に紹介した主なガイドブック

ハヤカワ文庫「SFハンドブック」「ミステリ・ハンドブック」「冒険・スパイ小説ハンドブック」

角川文庫「読書の快楽（正統）」「恋愛小説の快楽」
「ミステリーは眠りを殺す」

文春文庫「東西ミステリーベスト100」「少年少女小説ベスト100」

岩波ジュニア新書 「図書館で出会える100冊」

本の雑誌社「おすすめ文庫王国2014」

集英社文庫—20世紀文学映画館—19世紀ロマン映

画館「戦争映画名作選」

朝日新書「映画365本」DVDで世界を読む」

又春ヒニニスリ又風一洋區ハ一ト(一)一田方明
画ベスト100「ミステリー」サスペンス羊画ベスト

ト150「女憂ベスト150」ビデオが大好き！

365夜「洋・邦名画ベスト150」

④「読書案内」の作成
「中学生の読書室」3年間で50冊にチャレンジ!と題した読書ノートを作成し、その中で推薦図書50冊の面白さを簡潔に紹介し、読書へのモチベーションを高められるようにした。

授業の中で、推薦図書の他にガイド

な手段の一つとして教えたい

「夏休み一課題」の選択肢の一つとして「読書・映画」についてプリントを作成して紹介した。

その中で、読了目標は最低15冊、そのうち5冊

は「指定必読図書」とし、できれば自分で購入するように指導した。惑想を書くなどという面

倒なことはやめ、「No」「書名」「著者名」「出版

社名「読了日」の5点のみ記入するように指示した。

ちなみに指定図書は、「十五少年漂流記」「野性の呼び声」「火星年代記」「蟬しぐれ」「ギリ

... 1941 ...

ジャンル	0	1	2	3	4
日本文学	『ついでに浮城』 第2	『野宮の巻』 第2	『天竺の巻』 第2		
	『だれのもの』 第2	『高天原の巻』 第3	『雲のついで』		
外国文学	『二年間の物語』 第1	『高天原の巻』 第3	『赤い羽の巻』 第2		
	『ついでに浮城』 第2	『野宮の巻』 第1	『雲のついで』		
推理・探偵 SF	『ついでに浮城』	『野宮の巻』			
	『高天原の巻』 第3	『ついでに浮城』 第1	『野宮の巻』 第2		
伝記・自伝	『おのれを語る物語』	『おのれを語る物語』	『ついでに浮城』		
ノンフィクション	『東京を歩く』	『高天原の巻』 第3	『ついでに浮城』		
自然文学	『ついでに浮城』 第1	『高天原の巻』 第3	『ついでに浮城』		
マンガ	『ついでに浮城』 (1巻)	『高天原の巻』 (1巻)	『ついでに浮城』 (1巻)		
	『おのれを語る物語』 第2	『高天原の巻』 第3	『ついでに浮城』		
文学					
	『高天原の巻』 第3	『高天原の巻』 第3	『ついでに浮城』		
SF・SF小説	『ボットちゃん』 第1	『高天原の巻』 第3	『高天原の巻』		
文学	『高天原の巻』 第2	『高天原の巻』 (上下)	『高天原の巻』		
ノンフィクション	『高天原の巻』 第1	『高天原の巻』 第3	『高天原の巻』		
その他	『高天原の巻』 第1	『高天原の巻』 第3	『高天原の巻』		

【国語科の先生のチェック表】

1 年			2 年			3 年		
1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
4月	8月	1月	4月	8月	1月	4月	8月	1月
5月	9月	2月	5月	9月	2月	5月	9月	2月
6月	10月	3月	6月	10月	3月	6月	10月	3月
7月	11月		7月	11月		7月	11月	
	12月			12月			12月	

[illegible]

読書ノート「中学生の読書室」（表紙、推薦図書とその読書案内）

「夏休み一課題」国語・技術に取り組むみなさんへ

2011. 7 北都中学校 国語科・技術科

夏休みが近づいてきました。どんな一課題に取り組むのか興味津々といったところですが、ここでは、国語、技術に関連してアドバイスしましょう。夏が満ちるのを楽しみにして下さい。

【国語科】

1. 「読書」を選択したみなさんへ

下記の3点を、課題として設定します。

- ①目標は、最低15冊とする。3日に1冊、1日1〜2時間読書の計画で、②そのうち、下記の5冊を「指定必読図書」とする。図書館(学校、複合・大野・池田町図書館)で借りる。自分で購入するなりして入手すること。できれば、自分で購入する。「タデで何かを」というようなナメケな個性は、何も身につかないと知るべし。

- ③「十五少年漂流記」 リー・ホーは、北和国書館、新潮文庫
冒険小説の古典にして、讀が読んでもいつの時代にも読んでも、期待を裏切らない名作中の名作。時代を超えてハナハダドキドキ感が持続し、一気読み必至。
④「野火」(野火)の野火 北和国書館、文芸春秋
中学生時代に読み、いまになにに書きつづける重要な名作。過激な運動に翻弄される闘いバツパツの読後感の物語。読後、大きな感動に包まれる。
⑤「火垂るの墓」(火垂るの墓) ハルノカワ文庫
「さすの」名作中の名作。文壇に数々の傑作を残した作家が、遠く天涯の水面に自分たちの影を移して見せる新しい概念は、SFならではの芸術的な想像力を著者に与える。同じ著者の作品として、映画にもなった「新緑45度」も有名。SF入門として必読。
⑥「銀の翼」 徳田秋声 文芸春秋
・現代文に読む価値に値するといってもよい。眼前に映像を彷彿とさせるようなリアルな描写、日本人に生まれてよかったと思わせる情懷性は昭和文学の真骨頂。時代小説を読むなら、まず徳田秋声から。徳田秋声の最高傑作とも言われる。長編時代小説。
⑦「ギリシャ神話を知っていますか」 徳田 浩 新潮文庫
・西洋文学を理解するためには、「聖書」「アーサー王物語」「ギリシャ神話」が必須。阿刀田高の著作は、非常に読みやすく、分かり易い。西洋文学の入門として、最高の一冊。「一と知っていますか」としてシリーズされている。これを読んでしまった人は他の著作も是非読んでみたい。

- ⑧本の題名、著者(訳者)、出版社、読了日の4点を最低記入すること。箇々の本の感想文は読後につけたい。感想を書く暇があったら、1冊でも多くの本を読んだほうがよい。残り10冊を指定したいところだが、個人の趣味の領域を尊重するのだから引けるので、あとは自由に。ただし、「読んだ本数」は必ずしも読後感と関係するものではない。金と時間の浪費と知るべし。これを機会に、更に興味「本の世界」に迷い込まれんことを。

2. 「映画」を選択したみなさんへ

下記の3点を、課題として設定します。

- ①目標は、最低15本とする。3日に1本、1本2時間として計算。②そのうち、下記の5本を、「指定必見映画」として指定する。

- ③「風と共に去りぬ」 ④「十二人の怒れる男」 ⑤「ワイルド・ワン」 ⑥「怒りの葡萄(2部)」
⑦「サウンド・オブ・ミュージック」

上記ビデオ。DVDは「三洋堂書店」「池田町図書館」にあります。後者なら貸し出し無料。字幕で見ても、吹き替えで見てもよいが、できれば字幕で、俳優の生の声、セリフの妙を味わいたい。

⑧読後感。『作品名』『製作国』『借りた場所』『見た日』をレポート用紙に記入。もたもた感想を書いている暇があったら、1本でも余計に映画を見た方がよい。

「夏休み一課題」での紹介

番号	書名	著者名	出版社名	読了日
1	小説 日本書簡	松本清張	新潮文庫	5月13日
2	燕子と生草	伊藤 壺	新潮文庫	5月15日
3	音楽美入門	山根 銀二	岩波新書	5月17日
4	戦時音楽の技術	梅村 忠史	岩波新書	5月18日
5	半生月記	松本清張	新潮文庫	5月26日
6	雷鳴川	鎌沢 七郎	新潮文庫	5月27日
7	芸京	目黒 誠	岩波新書	5月28日
8	新音楽教育のすすめ	鈴木 俊助	岩波新書	5月28日
9	オケラ	川端 康成	新潮文庫	5月27日
10	虹 浅茅の虹	川端 康成	新潮文庫	5月27日

私自身の読書ノート(1冊目)

「3年間で50冊にチャレンジ」～「読書ノート」の書き方～

1. 「読書ノート」記入例

①「読書ノート」記入例

②「読書ノート」記入例

③「読書ノート」記入例

④「読書ノート」記入例

⑤「読書ノート」記入例

⑥「読書ノート」記入例

⑦「読書ノート」記入例

⑧「読書ノート」記入例

⑨「読書ノート」記入例

⑩「読書ノート」記入例

⑪「読書ノート」記入例

⑫「読書ノート」記入例

⑬「読書ノート」記入例

⑭「読書ノート」記入例

⑮「読書ノート」記入例

⑯「読書ノート」記入例

⑰「読書ノート」記入例

⑱「読書ノート」記入例

⑲「読書ノート」記入例

⑳「読書ノート」記入例

㉑「読書ノート」記入例

㉒「読書ノート」記入例

㉓「読書ノート」記入例

㉔「読書ノート」記入例

㉕「読書ノート」記入例

㉖「読書ノート」記入例

㉗「読書ノート」記入例

㉘「読書ノート」記入例

㉙「読書ノート」記入例

㉚「読書ノート」記入例

㉛「読書ノート」記入例

㉜「読書ノート」記入例

㉝「読書ノート」記入例

㉞「読書ノート」記入例

㉟「読書ノート」記入例

㊱「読書ノート」記入例

㊲「読書ノート」記入例

㊳「読書ノート」記入例

㊴「読書ノート」記入例

㊵「読書ノート」記入例

㊶「読書ノート」記入例

㊷「読書ノート」記入例

㊸「読書ノート」記入例

㊹「読書ノート」記入例

㊺「読書ノート」記入例

㊻「読書ノート」記入例

㊼「読書ノート」記入例

㊽「読書ノート」記入例

㊾「読書ノート」記入例

㊿「読書ノート」記入例

読書ノート記入見本

「3年間で50冊にチャレンジ」～「読書ノート」の書き方～

2. 「読書ノート」記入例

①「読書ノート」記入例

②「読書ノート」記入例

③「読書ノート」記入例

④「読書ノート」記入例

⑤「読書ノート」記入例

⑥「読書ノート」記入例

⑦「読書ノート」記入例

⑧「読書ノート」記入例

⑨「読書ノート」記入例

⑩「読書ノート」記入例

⑪「読書ノート」記入例

⑫「読書ノート」記入例

⑬「読書ノート」記入例

⑭「読書ノート」記入例

⑮「読書ノート」記入例

⑯「読書ノート」記入例

⑰「読書ノート」記入例

⑱「読書ノート」記入例

⑲「読書ノート」記入例

⑳「読書ノート」記入例

㉑「読書ノート」記入例

㉒「読書ノート」記入例

㉓「読書ノート」記入例

㉔「読書ノート」記入例

㉕「読書ノート」記入例

㉖「読書ノート」記入例

㉗「読書ノート」記入例

㉘「読書ノート」記入例

㉙「読書ノート」記入例

㉚「読書ノート」記入例

㉛「読書ノート」記入例

㉜「読書ノート」記入例

㉝「読書ノート」記入例

㉞「読書ノート」記入例

㉟「読書ノート」記入例

㊱「読書ノート」記入例

㊲「読書ノート」記入例

㊳「読書ノート」記入例

㊴「読書ノート」記入例

㊵「読書ノート」記入例

㊶「読書ノート」記入例

㊷「読書ノート」記入例

㊸「読書ノート」記入例

㊹「読書ノート」記入例

㊺「読書ノート」記入例

㊻「読書ノート」記入例

㊼「読書ノート」記入例

㊽「読書ノート」記入例

㊾「読書ノート」記入例

㊿「読書ノート」記入例

読書ノート

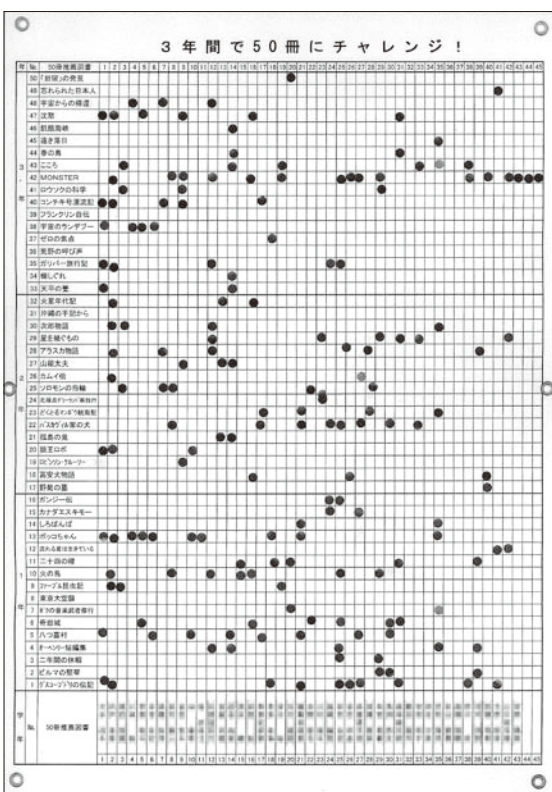
「著者名」「出版社名」「読了日」の5項目合わせて1行書くだけ。これは高校三年時の担任の「読書ノート」に読んで本を記録する。なぜ、記録するのか。これは貯金通帳に記録するようなもので、どれだけたまったかが目に見える、それが意欲に結びつく。ドラッカー言うところの「見える化」の効果である。ただし、一口感想など一切なく、「No」「書名」

教えを真似たもので、自分自身もこの形式で1979年から36年間、記録を続けている。物足りないような気もするが、継続させようと思っただけで、できるだけ手間の掛からないようにすることが必要である。なお、このノートは3年間活用し、推薦図書全50冊の読了者にはオリジナル粗品進呈の企画を構想中である。私自身の読書ノートも紹介して、記録することで読書の足跡が残り、継続することで読書意欲が持続できることを伝えた。なお、私の読書ノートは生涯1万冊読了を目指して、1冊に1000冊記入できるものを10冊、36年前に印刷製本し、5000冊を超え現在6冊目に記入を

続けている。

②「読了一覽表」の掲示

学年全員の読了一覽表を作成し、学年の廊下掲示板に掲示し、読了本にはシールを貼らせた。個別の記録表と同様、自分や友達がどれだけ読んだのか視覚的に確認できることで、読書意欲が刺激される。これはかなり効果的で、友達と競うようにしてシールを貼ろうという姿が見ら



読了一覧表

図書館を利用したい生徒にとって、ほとんどなにに等しい存在であった。50冊という限定はあるにせよ、いつでも簡単に本を手にする事ができるようになったことは、読書への距離を著しく近くしたといってもよい。

また、50冊の推薦図書を設定することで、読書のジャンルに広がり生まれ、それが今後の読書の指標になったはずである。

この推薦図書で、初めてその本の存在を知ったという生徒もいた。それを契機に新しい読書ジャンルの開拓へとつながることは、自身が身をもって体験している。この推薦図書が一つの突破口になることを期待している。

今後の課題は、次の3点である。

- ・推薦図書の「課題化」
- ・推薦図書の「個人購入」
- ・読書活動の「組織化」

本を紹介するだけでは、手に取る生徒は少ない。「読まざるを得ない環境」を設定することで、

「食わず嫌い」を解消するような荒療治も必要である。

読んだ本を本棚に並べることで、読書意欲が更に増進される。また身銭を切ることで、本を選ぶ選択眼が育つ。何事にも時間と金は必要である。教師の刺激には時間的、個性的にも限界がある。たとえば、文化委員会の「読書通信」等で、本の紹介や多読者の表彰等を企画すれば、本への関心を日常的に持続させることができるのではない。

最後に、生徒のアンケートから感想を紹介したい。稚拙ではあるが、読書の喜びがストレートに伝わってくる。

私は、はじめはぜんぜん読む気がなかったけど、「宇宙からの帰還」を読んで、素晴らしいと思いました。

私は宇宙に興味があり、この本を読んで涙が出るほど感動しました。宇宙に行った人の気持ちがとてもよく分かりました。これから、読書の幅が広がり、難しいと思っていた本も積極的に読むようになりました。最後までしっかりと読み通せるようになりました。最後に、これをきっかけに、自分から本を手にとって読むようになりました。家でもよく読むようになりました。(中2女子)

3. まとめ

次の2点については、一歩前進したと考えられる。

- ・本がより身近な存在になった。
- ・推薦図書により、読書の指標ができた。

以前は、図書館の開館時間が極端に少なく、